

令和5年度学校評価 自己評価実施報告

栃木県立小山高等学校

目指す学校像	○ 自主的かつ根気強く学習に取り組み、希望する進路の実現に向けて努力できる生徒を育成する学校 ○ 学習や部活動等に意欲的に取り組み、文武両道の実践を通して自己の能力を最大限発揮できる生徒を育成する学校 ○ 学校生活全体を通して、新しい時代を切り拓き、社会のリーダーとして活躍できる生徒を育成する学校
--------	--

本年度努力点	1 【進路実現に向けた連携強化】 生徒のよりよい進路実現に向けた進路指導部・学習指導部・各学年の密接な連携 2 【生徒指導・生徒支援体制づくり】 多様化する生徒に対し、早期に、きめ細かく、組織的に指導・支援できる体制づくり 3 【文武両道の推進】 学習と特別活動（部活動・生徒会活動・ボランティア活動等）が互いに相乗効果をもたらす計画の策定と実践 4 【風通しのよい職場づくり】 教職員が学校課題等について活発に話し合い、協働して取り組める職場環境づくり
--------	---

今年度の重点目標と努力点		今年度の取り組み	自己評価	今後の改善方策等
目 標 ①	安心・安全な学校環境のもと、学力の向上と希望進路実現を可能とする組織力の強化 1. 「小山高校進路探究プログラム」の実施による探究力と進路意識の向上（学習指導部） 2. オンラインを活用した進路行事・キャリア教育の質的向上及び「小山高校進路探究プログラム」等の実施に際しての学習指導部・学年との連携・協力・改善（進路指導部） 3. 探究学習活動の充実（理数教育推進部）	1. 「小山高校進路探究プログラム」において、事前探究学習、大学でのインターンシップを実施し、生徒は成果・活動内容をまとめて発表・報告することができた。また3年生については2年次のプログラムの成果を基に「学びの設計図」を作成した。 2. 進路指導講演及び行事等が新型コロナ感染症が5類に移行したことにより、今年度は概ね対面実施に戻ったが、熱中症や感染症が増加した際や個々に考えさせ書き込む活動等を取り入れた指導の際にはオンライン活用は効果的であった。小山高校進路探究プログラムについては、運営する学年等からの進路指導に係る要望や依頼事項について、学習指導部や関係者と連携して取り組み、昨年より改善した部分もあった。 3. 連携大学の協力により課題研究を実施した。今年度は充実度を高めるために一人一研究を試みた。また、Teamsの利用により大学の指導者との連携を円滑にすることができた。	B	1. 進路探究の成果を進路実現に生かす指導を目指す。また成果発表については、学校行事として外部に発信できるようにしたい。 2. 進路講演、行事、会議等について、新年度は今年度実施したものを一つひとつ検証して、実施内容・方法等改善しながら計画を策定して実施したい。今年度はアクティブラーニング型主権者教育が実施出来なかったため、次年度は専門機関及び生徒指導部と連携して計画的に実施したい。 3. 大学との連携を一層強め、「実験講座」や「特別授業」のさらなる充実を図りたい。
目 標 ②	「知・徳・体」のバランスのとれた生徒の育成 1. 特別活動（学校行事や部活動など）の内容の見直し及び限られた中での効率的な活動の推進（特活指導部） 2. 高校生マナーアップ運動の推進（生徒指導部） 3. 心身の健康と感染症対策の徹底（健康指導部）	1. 新型コロナ感染症の5類移行にともない、可能な限り行事を実施するとともに、行事については熱中症対策、感染防止等を優先的に考慮した上で計画を立て、実施した。 2. 交通については、ヘルメット着用努力義務を推進した。モラルやマナー向上については、公共の場に応じた行動の見直し（駅など）やスマホ利用における個人情報の取り扱い（保護など）を強調した。 3. 感染症法でコロナが5類へ引き下げられたが、手指消毒用アルコールの常設を一部の場所を除き継続した。カウンセリングが必要と思われる生徒は、教育相談係と連携しスクールカウンセリングや医療機関への受診を勧めた。	B	1. 今後も熱中症対策、感染症対策に配慮しながら、行事の内容、公開時の規模などを検討し計画を策定する。 2. 青切符導入にむけて、ヘルメット着用率の向上を図る。また、LINE等SNS絡みのトラブルが多いので、人権問題を考えさせるなどして、生徒のモラルやマナーに対する意識を向上させる。 3. アルコール常設が一般化されているため学校も常設が必要だと考える。生徒の心の問題については、教育相談係や担任（学年）と連携を密にして引き続き対応していく。
目 標 ③	保護者や地域に信頼される、選ばれる小山高校の構築 1. 継続的な学校評価を実施し、地域に対する広報活動の充実（教務部） 2. 保護者から信頼されるPTA活動の在り方の研究と実践（生涯学習部）	1. これまで通りに学校評価を実施、学校ホームページによる広報活動を継続的に行っている。昨年度は中学生のみ参加の一日体験学習であったが、今年度は保護者も参加可能とした。その内容も、生徒主体のものを以前より充実させたこともあり好評であった。 2. Google フォームを利用した書面決議やアンケートなどを積極的に取り入れ、多くの保護者が参加しやすい形での活動形態を模索した。	B	1. 評価を受けての検討をしっかりと行うとともに、学校ホームページによる広報活動の充実を図る。来年度実施される聡輝祭など、小中学生を本校に招き本校生によりアピールする機会の充実を図る。 2. PTA 関連行事において行事担当者とPTA 担当教員との連携がうまくいかず、保護者への通達が直前になってしまったり、連絡事項の通達ミスが発生したりしてしまっただけで、担当者間の綿密な確認を行い、連携強化や迅速な連絡を図る。

自己評価基準 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力が必要